

# 例会報告

第2526回例会報告議事録

日時 30年5月29日(火曜日)

場所 川村学園女子大学 我孫子キャンパス内 会議室

時間 12:15点鐘

ロータリーソング「我らの生業」

ビジター：なし

ゲスト：なし

S.A.A.：福武会員

## 会長挨拶

服部会長



今日は依田SAAが久しぶりに出席されています。会の方からお見舞金が出ていますが、同じ病気で2回目です。依田さん、食事療法も含めて、しっかり健康を取り戻してもらいたいと思います。

今年度も終盤で、来月一ヶ月残すだけとなりました。来週はバスを借り切って、信州の美ヶ原に親睦旅行に行ってきます。これが今年度最後の行事となり、その後は新旧交代式となります。本当に年度の最後になって参りました。

昨日、茅ヶ崎で90歳の女性の方が4人をはねて1人亡くなるという事故がありました。90歳で運転されているということも驚きましたが、赤信号は認識していたけれども歩道を渡る人がいなかったため発進をしたということにもっと驚きました。信号無視で人を死なせると通常は実刑になり刑務所に入りますが、90歳の方が人生の更生の為に刑務所に入るというのは、どういう意味があるのかなと家内と話しました。

人生の引き際、潔さ、というのはなかなか自分では決断できません。

私の家内の母親は92歳ですが、山口県の女性としては2番目とか3番目の早さで免許を取得したのですが、加齢とともに運転が怪しくなってきたので、3年前に娘3人が母親に迫って免許を返上させました。

外部から決められる定年退職とかはよいのですが、自営業は自分で引き際を決めないといけなないので、非常にむづかしいです。人の財産を預かる仕事ですので、ミスがあるようなことになれば人に迷惑をかけるということで引くことになると思います。

そういう決断ができないと、連日テレビで放送されているような大学の監督みたいなことになってしまうのかなと思います。人の振り見て我が振り直せで、引き際の美学を少し考えながら、これから先、過ごしていきたいと思います。

幸い、ロータリークラブの会長は自分の意志ではなく時間がくれば自動的に変わりますので、大変ありがたいと思っております。

今日は入会されて早々なのですが、佐藤会員に卓話をして頂きます。よろしくお願いいたします。

## 親睦委員会報告

倉持会員(代理)



今週末から親睦旅行になります。ご参加される方はバスの乗車時間、場所を再度ご確認ください。よろしくお願いいたします。

## 出席報告

佐藤拓司会員



14名出席(全員で27名) 出席率51.85%

欠席者が12名。

業務の為：荒井会員、石原会員、今井会員、上村会員、木村会員、  
小池会員、佐藤雅教会員、塩毛会員、高島会員、福武会員、  
柳田会員、米田会員

## 事業計画書の提出のお願い

依田次年度幹事

各委員長様にはご依頼させていただいておりますが、事業計画書を6月12日の例会までにメールか書面でいただければと思います。できればメールでいただけると助かります。



ご迷惑、ご心配をおかけしてすみませんでした。

連休頃から調子が悪く、少し動いただけでゼーゼーしてしまい病院に行きましたら、2年前にやりましたネフローゼが再発しているとのことで入院になりました。

ネフローゼというのは子どもに多いと言われてはいますが、腎臓の病気です。アルブミンという血中の成分がなくなり、血中から水分が出てしまい、おしっこから水分が出ず、むくんできます。ずっと太ったなと思っていたのですが、95キロだったのが、ある日100を超えて、結局112キロまで太り、病院ではどうしようもないとのことで、点滴でアルブミンとタンパクを入れて補う治療をしていました。1日に5000cc位おしっこを出し、毎日4、5キロずつ痩せていきました。今は92まで落ちました。

腎臓はやっかいなところで、痛くないので、そのままにしてしまいます。静養と塩分制限をします。松戸市立病院が新しくなった松戸総合医療センターに入院したのですが、施設はすごくきれいでした。

飲みは2、3ヶ月むずかしいかと思いますが、ロータリーの方は次年度に向けて頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。



依田会員へお見舞金を授与

## 幹事報告

村越幹事



- ・ 6月5日(火)は休会になります。
- ・ 6月12日と19日は通常例会になりますが、最終日の26日は新旧交代式をポアロで行います。お間違いのないようご注意ください。

## 卓話

佐藤拓司会員



我孫子ロータリークラブに参加させていただいて約1ヶ月になります。今回、自己紹介という形でお話しさせていただこうかと思えます。その中でも今日の私が形成されるにあたって、一番影響したと思われる、小学校から高校までやっていた剣道で経験したこと、学んだことをお話しさせていただければと思います。

私は昭和42年3月に千葉県館山市で生まれました。父親は青森県弘前市の出身、母親は館山の出身でした。父親が東京水産大学(現、東京海洋大学)出身で、そちらの校舎が館山にあり、そこの下宿先の娘が私の母親だったということです。

その後、父親が千葉県庁に就職した関係で千葉市に転居しました。小学校を3回程転校したのですが、そこでちょっとしたいじめというものを経験します。

2校目が新興住宅地で当時は1クラス20名で学年で2クラスの小さい学校だったのですが、3校目が1クラス40名で学年で7クラスあるマンモス校でした。こちらでは人の多さに圧倒され、なかなか馴染めず、また当時から肥満気味で、それが原因だったのかなと思います。

私の場合は、個々に何人かの人がちょっかいを出してくるだけで、今思えば、単にいじられていたのかなと思いますが、当時は学校に行くのがいやだったという記憶がございます。

だんだん殻に閉じこもるようになってきた私を見て両親が、親戚に警察官がいて相談した所、警察が主催する剣道教室に入れられました。小学校5年生だったのですが、好きだった野球をやめさせられて、剣道をやらされることになりました。これが私の人生の転機を迎えることになる剣道生活のスタートとなりました。

(次ページへ続く)

剣道経験者の方がいらっしゃいましたら、考え方が違う方がいらっしゃるかもしれませんが、あくまでも私個人の考えでございますので、ご容赦頂ければと思います。

剣道のイメージは、礼節を重んじる、心身を鍛錬するとかいう良いイメージがあると思います。

私は親に強引にやらされたので、練習に行くのがいやでいやでしょうがありませんでした。小学校5年生から始めたので、小学校2年生の子達と一緒に練習するのも恥ずかしかったし、当時、うさぎ跳びで体育館を3周するのも大変つらくて、いやでいやでしょうがありませんでした。今は膝を悪くするということで、うさぎ跳びは禁止だそうで、当時から禁止だったらどれだけ良かったらと思います。

参加者は50名くらいで、練習中は目立たないように物陰に隠れながら、けれども休むと怒られるので、泣きながら練習に行っていた記憶があります。

その後、中学生になり、ちょっと転機がありました。中学校ではリスタートが切れ、みんなに馴染めるようになりまして。当時、校内暴力というのが流行りまして、私の1個下が大騒ぎをして毎週NHKが取材に来るという厳戒な態勢の学校でした。部活も剣道部に籍は置いたのですがほとんど幽霊部員で、中学生の時は剣道をやったという記憶はほとんどありません。

高校生になり、今の自分を形成する為に色々なことを学びました。

まず入学して、ラグビー部に入りたいと思いました。35年前くらい前はラグビー部がある高校はそこくらいしかなかったのですが、春休みに事故が起きて廃部になってしまいました。

そこで先輩達から声がかかり、剣道部に入りました。中学を卒業して、そこそこ体はできているのですが、高校3年生は完全に体が出来上がっていて、おっさんみたいな先輩に言われたら断る勇気がなく、泣く泣く防具を持って行った記憶があります。

その頃、剣道部は3年生が2人、2年生が3人で、剣道は5人で試合に出ますので、試合に出るピタリの人数でした。そこに新入生が7人入りました。2人が初心者、5人が経験者でした。私は今まで真面目に取り組んだことがなく、限りなく初心者に近い経験者という位置づけでした。

私は2人の人物にそこで出会いました。

1人は顧問の先生です。先生は私たちと同時にその高校に転勤してこられました。その先生は、なぜこの高校に来たのかと疑問に思うような経歴をもっていらっしゃいました。宮城県仙台育英高校で剣道をやっていて、団体個人で日本一になられて、高校を出た後、警視庁に入ったのですが、夜学で大学に通って先生になった方でした。当時、先生は37歳で7段を持っていらっしゃいました。

もう1人は同級生で後の部長となる大島君です。

大島君というのは、剣道で有名な中学校出身でした。彼は入学前の春休みから部活に参加していて、先輩達ともツーカーで、私たちとは違う状況でした。彼に引っ張られるように私たちの部活生活がスタートしました。

私は中学で遊びほうけていたので、日々の練習について行くのが必死という状況でした。その中で、その先生の練習は非常にオーソドックスな練習で、厳しくもなく、2時間ぴったりで、基本練習の反復、実践練習、その繰り返しでした。先輩達は、前の先生に比べて本当に楽だ、お前達は幸せだと言っていました。

後に先生に話を聞く機会があったのですが、先輩達は前の先生に教わった癖がかなりついていて、今から直して自分のものを教えるには時間がないと、ということで、長所を伸ばしてあげようと気持ちを切り替えたいです。で、私たち1年生をどうしようかと考えたらしいのですが、全国で戦える人間にしようと思ったらしいです。先輩とは全然違う練習をやらされました。勝つためのポイントに絞った練習でした。

その中で、段々実力が上がってきました。私たちが2年になり、3年生は最後の試合になりました。3年生3人と、2年生は大島君と私が選ばれました。私は同期で3番手か4番手にやっとなれたかなというくらいだったので、大抜擢でした。なんとか期待に応えたいと思い、試合まで必死に頑張りました。

試合の前日、先生に呼ばれ、衝撃的なことを言われました。そのことを思い出すと、今でも目頭が熱くなります。おまえは明日勝てない、先輩達もそれはわかっている。でも、お前を使う。先輩達も賛成した。明日の敗戦を今後活かせる試合にしろ、と言われました。今思えば、試合前にとんでもないことを言う人だなと思うのですが、そういう思いをすべて抱えて、初めての大会に出ました。負けたのですが、その時は大泣きました。みんな慰めてくれたのですが、本当にいろんなことを学ぶ一試合だったと思います。

その後、最上級生になり強くなって行くのですが、その時からピタッと大島君が勝てなくなってきました。大島君は165cmくらいで体はそんなに大きくないのですが、とにかくスピードが速くて、剣道では先鋒、次鋒、中堅、副将、大将の順で試合をするのですが、先鋒では無敵でした。が、先輩が抜けた後に大将をやらされることになりました。大将はおもしろいことに、どこの学校も、背の高い、がたいのいい、どっしりとした剣道をするのが大将でした。そこに入ったら、大島君は全然勝てなくなりました。まわりも、なぜ先生は大島君を大将にするのかと思いました。

そんなある日、私たちの代が先生に呼ばれました。大島君は、大学、社会人になっても剣道を続け

て、先生になりたいとのことで、先生は、「今やっている剣道だと大学で通用しないので、大将の剣道を教える、お前達には迷惑をかけるかもしれないがわかってくれ」とのことでした。

その後、私の方にある感情が芽生えるようになってきます。

大島君は圧倒的なリーダーシップでみんなを引っ張って行った反面、やはり、若干わがままではないかと思われる部分もあるわけです。最初はそれも含めて、大島君がリーダーだったのですが、大島君が勝てなくなってきた、私が試合で大島君に負けなくなってくると、大島君に対するみんなの気持ちが「ちょっとあいつ、わがままじゃないか」の方が強くなってきてしまいました。

大島君はそれに気づいていたとは思いますが、ただ、やっぱり私たちの前では圧倒的なリーダーシップを発揮していました。私も強くなってきちゃったところで、部がちょっと分裂し始めました。私は下の者に優しくしていたので、下の者は私についてくるようになりました。それがきっと私の天狗になっていた絶頂期だったと思います。

最上級生になり、最後の大会を間近に控えた時期になりました。その頃、私の高校は、先生がおっしゃっていた全国で戦える高校までは行かないのですが、千葉県で優勝するくらいの高校になっていて、休みの度に県外に試合に行きました。その時、私は学校生活において最大の失敗と最大の勉強をすることになります。

遠征が続く中、本当に疲れてきまして、私と大島君は負けても替えてもらえず、なんで替えてくれないんだと思い始めていました。その頃、手首を痛め、その後わかったのですが、手首の軟骨が6つあるうち4つ潰れているとかで、もう治らないと医者に言われました。ちょうどそれが痛くてしょうがない頃でした。

いやいや試合に出るようになっていた時に、竹刀をはじかれた時に私は竹刀を握っていらなくて投げてしまいました。それで負けて戻ったら、先生に本当に怒られ、後ろでみんなを見てろと言われてました。ある意味、私はホッとしたのですが、補欠達がどんな思いでレギュラーを応援しているのか後ろで見て、その時は本当に後悔しました。

剣道は団体戦でありながら、一对一の勝負なので個人戦の意味合いが強いと思っていたのですが、団体戦だと、みんなで戦っているのだと、その時、本当に身にしみました。

私が高校時代に学んだ一番大きなこと、これは後にテレビドラマでもやっていたのですが、「1人はみんなの為に。みんなは1人の為に」です。

私は日大出身でいろいろ言われることもあるのですが、日大は皆さんが思っている程、愛校心がありません。でかいので。学部が違くと違う大学ぐらいの、そんなイメージです。「大学のスポーツとして何をやっているんだ、本当に」と思います。

結論としては高校時代で剣道をやめました、大学で嫌な世界を知らなくてよかったな、いい思い出でよかったなというのが感想です。

卓話でこんな話をしてもよいかわからないのですが、ただの思い出話になってしまいました。お時間を頂戴しまして、ありがとうございました。

## 閉会の言葉

服部会長

来週はこちらで例会はありませんので、お間違いのないようにしていただきたいと思います。アメフトのお話がありましたけれども、実は私の娘婿も日大です。どうも失礼しました。

## ニコニコBOX

お名前	メッセージ	金額
服部会長	卓話ありがとうございました。良いお話しうかがいました。	1,000円
村越幹事	佐藤会員 卓話ありがとうございました。	1,000円
伊東会員	佐藤会員 卓話ありがとうございました。	1,000円
佐藤拓司会員	貴重な時間 申し訳ありませんでした。	1,000円
鈴木会員	佐藤会員 素敵な卓話でした。	1,000円
瀧日会員	佐藤会員 楽しい卓話を有難うございました。	1,000円
前田会員	卓話ありがとうございました。	1,000円
依田会員	お見舞ありがとうございました。退院いたしました。	1,000円
	当日計	8,000円
	今期累計	377,087円

今週の表紙「古木庵 タニヤ」千葉県我孫子市湖北台1丁目16番地3号

湖北駅から歩いて2分の場所にある蕎麦・うどん屋さんです。座敷の座卓席もあるので、小さなお子さんがいても安心してゆっくり食べられます。

カレーうどん、天せいろがおすすめです。

ロータリーの友事務局 ホームページ [www.rotary-no-tomo.jp](http://www.rotary-no-tomo.jp) メールは [web@rotary-no-tomo.jp](mailto:web@rotary-no-tomo.jp)

環境NPOオフィス町内会が中心となって2005年に立ち上げた新たな間伐促進活動が「森の町内会」です。この活動に賛同して「印刷用紙」や「コピー用紙」を使用する企業は2009年9月現在、92社にのぼり、その環境貢献として促進される岩手県岩泉町・葛巻町・青森県三沢市での間伐は、年間30haの規模になっています。グリーン購入大賞で大賞を、山村カコンクールで林野庁長官賞を受賞しています。



**森の町内会**  
間伐に寄与する紙  
[www.mori-cho.org](http://www.mori-cho.org)

この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。

我孫子ロータリークラブは、環境貢献として、「森の町内会」を応援します。